

加藤副社長の急逝

1996(平成8)年にフィリピン進出を果たしたことはすでに述べた。駐在した加藤副社長があらゆる業務をこなせる人物だったからこそ、早い時期に海外進出を果たすことができたのだ。語学は堪能でなかつたが、熱心な教育が奏功し、現地で精密金型ができるまでに1年とはかからなかつた。操業から7年が経過し、ようやく利益が出るようになつたのを機に、当時の工場から南へ50キロの経済特区に3000平方㍍の工場を建設することにした。

ところが建設業者に前金として300万円を支払つた1週間後に、加藤氏が急逝したのだ。合弁相手側は「優れた技術の能力を持つ加藤氏がいなければ、この会社の継続は無理だ」と判

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫

35

断。ただちに資本金の返却を求めてきた。告別式も終わつていないので、前金を払う前に加藤副社長が逝去していただけたら、建設は予定された。中国人はやはり金のことになると厳しいな」と思つた一方で、「これで彼のことになつたんだろうが、建設は予定

わが人生最大のピンチ

通り進めることにした。

「次の駐在者を誰にするのか、ローカル社員は本当に合流してくれるのだ

ろうか、1年近くも顧客に迷惑を掛けられれば当社から離れていくのではなかろうか、この事業が失敗に終わり、顧客や本社社員にまで迷惑をかけるのではないか」。ドライバーのサミーと建設現場を見学に行つた時、とめどなく流れる涙で将来どころか目の前のものまでもがかすんで見えた。

「らしさようならができる」と思いほつとした。前金を払う前に加藤副社長が在した後、加藤氏の後任に、3年前にアメリカの大学を卒業した息子の童平と川崎営業課長、設計の渡邊次長、ペ

テラン技術者の立松氏の4人を指名した。改めて加藤氏がいかに1人で頑張つていたかが分かつた。日本人不在の現地法人に急きよ駐在した彼らの苦労は計り知れなかつただろう。

しかし、助ける神もいるものだ。7割の社員が移転を拒否したが、日系独資になつたことを知り、全員が残ると言つた話は第30話で述べた通りだ。実として彼らの気持ちを動かしたのだとと思う。その後、こんにちまで順調に成長できたのは、この時抜擢した優秀な



建設中のフィリピン第一工場

このようないいな

だ。眠れない日も多く、5キロも瘦せてしまつた。私と疊田専務が2カ月間滞在した後、加藤氏の後任に、3年前に

童平と川崎営業課長、設計の渡邊次長、ペ

テラン技術者の立松氏の4人を指名し

た。改めて加藤氏がいかに1人で頑張つていたかが分かつた。日本人不在の

現地法人に急きよ駐在した彼らの苦労

は計り知れなかつただろう。

しかし、助ける神もいるものだ。7

割の社員が移転を拒否したが、日系独

資になつたことを知り、全員が残ると

言つた話は第30話で述べた通りだ。実

として彼らの気持ちを動かしたのだと

思う。その後、こんにちまで順調に成

長できたのは、この時抜擢した優秀な

社員の苦労があつてのことだ。